

とどけよう スポーツの力を東北へ!

第22回日・韓・中ジュニア交流競技会岩手大会

8月23日~29日まで、岩手県内5市11競技会場で日・韓・中ジュニア交流競技会が開催されました。高校生世代のア スリートたちはベストを尽くして競い合い、国は異なっても同世代の若者同士、スポーツを通じて友好を深めました。

1,000人余りが参加した盛大な開会式

この競技会は日本、韓国、中国の青少年を対象に、ス ポーツ交流による相互理解と競技力の向上を目的に、 1993年から3カ国持ち回り方式で毎年開催されています。 22回目を迎える今大会は岩手県が会場になり、陸上競技、



一部写真は岩手日報撮影

サッカー、テニス、バレーボール、バスケットボール、ウ エイトリフティング、ハンドボール、ソフトテニス、卓球、 バドミントン、ラグビーフットボールの11競技を盛岡市、 花巻市、北上市、一関市、奥州市の5市で実施。開催地の 本県は単独チームを結成して全種目に出場するとともに、 本県の豊かな自然や伝統文化などの魅力を国内のみなら ず、アジアの近隣諸国にアピールしました。

開会式は8月24日花巻温泉ホテル千秋閣で行われまし た。3カ国から集まった選手・指導者は1,000人余り。岩手 県の若きアスリートたち191人も胸を張って入場しました。

盛岡白百合学園高校3年山口奏さんの重厚なチェロ演 奏から始まり、花巻北高校2年赤沼ひとみさんと藤瀬響平 さんが司会進行を努めました。

各国の選手団長が大きな拍手に迎えられて入場、実行 委員会の川口仁志委員長(岩手県体育協会副会長兼理事 長) が高らかに開会を宣言しました。張富士夫日本体育協 会会長は「大会が日本の岩手で盛大に開催されることは大 変喜ばしい。競技の合間に相互の交流、友情を深めてほし い。2020年の東京オリンピックで再びお会いすることを 期待する。|とエールを送りました。3カ国語で挨拶をして



会場を沸かせた達増拓也知事は、「東日本大震災津波以降、 韓国、中国をはじめ多くの国からいただいた友情や励ま しは尊い財産で復興に向けたエネルギーになっている。」 と感謝し、「岩手県の食文化や歴史に触れて大会のいい思 い出にしていただきたい。」と歓迎の言葉を述べました。

選手宣誓は日本選手団を代表して、ラグビーフットボール競技日本代表 藤井大喜選手 (黒沢尻工高3年) が「3カ国の友好と交流を深め、アスリートとしての誇りとフェアプレー精神を胸に、日本と岩手を元気にすることを誓います。」と力強く宣誓しました。

式後のアトラクションでは、北上翔南高校の鬼剣舞部が、2012年の全国高等学校総合文化祭で文部科学大臣賞・最優秀賞を受賞した見事な演舞を披露。伝統を継ぐ唄とお囃子、息の合ったアクロバティックな舞に会場からは感嘆の声が上がり、盛況のうちに開会式は終了となりました。

同年代のトップ選手が熱戦を繰り広げる

競技は開会式に先立ち24日の午前10時からサッカーとラグビーフットボールの試合が始まり、4日間にわたる 熱戦の火ぶたを切りました。

県内の5市で本格的に競技がスタートした25日、花巻市総合体育館ではハンドボールとバレーボールの試合が行われました。女子ハンドボールの第1試合は岩手代表チーム対日本代表チーム。黄色いユニフォームに身を包んだ岩手代表チームは果敢にシュートを放ち善戦しますがなかなか得点に結びつかず、12対30で敗れました。観客席で応援していた選手のお母さんは、やはり日本代表選手は動きが違いますね。子供たちにはいい経験になったと思います。国際大会に参加できるチャンスはめったにありませんから、明日も楽しみに応援します。と明るく答えてくれました。

別館では男子バレーボールの試合。2つのコートで同時に岩手代表チーム対韓国代表チームと日本代表チーム対中国代表チームの試合が行われ、スパイクが鮮やかに決まるたびに歓声が上がりました。岩手代表チームは、第1セットは落としたものの第2セットを奪取。花巻市内から来たという女性は「岩手が1セット取って本当にうれしい!地元で日・韓・中の国際大会が開かれると聞いて観

戦に来ました。私もママさんバレーをやっているので、高校生のはつらつとしたプレーを見ると元気をもらえます。 この中から将来、オリンピックの選手が出るかもしれませんね。」と、期待を込めて話していました。

岩手代表チームは惜しくも敗れましたが、日本代表チームは3対1で中国に勝利。この日は県内各地で8競技が行われ、陸上競技日本代表の佐々木愛斗選手(盛岡南高2年)が400mで優勝。岩手代表チームは女子バレーボールが韓国にストレート勝ちし、中国と戦った男子バスケットボールも初戦を飾りました。

26日は10競技を行い、岩手代表チームはソフトテニスが男女とも中国に5対0で勝つなど健闘。また競技最終日の27日は11競技が行われ、高校生世代のトップアスリートの力と力がぶつかり合う熱戦が繰り広げられました。



競技が終了した27日の夜には、花巻温泉ホテル千秋閣で「フレンドシップ交流」が花巻北高2年佐々木愛美さんと柳田はるなさんの司会進行でにぎやかに開かれました。中でも各国選手団のスタンツは最高潮の盛り上がりを見せ、会場は歓声や指笛の嵐。盛岡第一高校書道部は軽快な曲に合わせて書道パフォーマンスを、花巻農業高校鹿踊り部は勇壮な鹿踊りを披露。ともに大きな拍手を受けました。熱い戦いを繰り広げた選手たちも同世代の若者同士、スポーツを通して打ち解けあい、友情の輪を広げて再会を誓い合っていました。

高校生対象の国際大会は本県初となった今大会。監督、 選手をはじめ、各競技団体、運営スタッフの皆さまのご協力のおかげで、無事終了することができました。

海外のトップレベルの選手との試合を通して一人ひとりのレベルアップを図る貴重な競技会となり、2016 希望郷いわて国体はもちろん、2020年東京オリンピックでの活躍が期待されます。

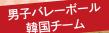


部写真は岩手日報撮影



INTERVIEW

~選手の熱い一言~

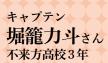




韓国代表 金 多湧さん 晉州東明高校3年

初戦は岩手チームと戦いましたが、意外に強くて苦労 しました。動きが早かったです。私は一昨年、この大会が 韓国で開催されたときにも参加しましたが、今回、日本に 来て日本のチームと戦うのが楽しみでした。まずは岩手 チームに3対1で勝ってうれしいです。日本には初めて来 ました。町がとてもきれいで、韓国の地方の町と似ている 印象を受けました。試合が終わったら、平泉を見学に行き ます。世界遺産になったところなのでとても興味があり ます。これからもバレーを続け、国家代表になってオリン ピックに出るのが私の夢です。







韓国は岩手チームとはパワーも高さも違い、サーブも 正確です。強いところを大いに見習いたい。こういう国際 大会は初めてです。人生でそう何回もない貴重な経験だ と思っています。岩手チームは2月にチームを結成し、1 カ月に1回くらい練習を重ねてきました。8月は合宿もし て猛練習しただけに勝ちにこだわりたかった。レシーブ を確実にして岩手らしく粘りのあるプレーで、岩手のチー ムも世界に出ていってほしい。国際大会で相手に自分の 名前を覚えられ、あいつはすごいなと思ってもらえたら 最高です。



キャプテン 佐々木遥美さん 不来方高校3年

女子ハンドボール岩手チーム

国際大会はうれしい半面、経験がないので不安に思いながらチームを引っ張ってきま した。こういうチャンスを生かして、全国の上位にいける岩手のチームをつくりあげた い。海外の選手は体が大きく、力の差やうまさの違いを実感しました。日本代表も技術 は上で負けてしまいましたが、自分たちもコンビネーションを合わせてチームプレーを 磨けばもっと力を出せると思います。今日はいい点もあったので、それを確認して次の 中国、韓国戦で生かし、いいイメージをもって長崎国体につなげたいと思います。









「競技会が終わって・・・」







競技会が終わり、選手の皆さんに感想をうかがいました。

ほとんどの選手が、国際大会に参加できて嬉しかった、この経験を生かしていわて国体に向けて頑張りたいと抱負を 語っていました。一部をご紹介します。

陸上競技 盛岡南高3年 最上 功己

- ■韓国・中国の選手と十分に戦えることがわかった。日 本チームとの差が縮まっており、少しずつ成長してい る事が実感できた。
- ●日本一を目指し、日本代表として世界に挑戦していき たい。

サッカー 盛岡商高チーム

- ●他国に通用した部分と圧倒的に劣る点がわかり、課題 を再確認できた。身体能力の高いチームへの対応の仕 方を学ぶ事ができた。
- ●国を背負うチームの迫力・威圧に圧倒されたが、力の 差は大きくはないと感じた。
- ●日本チームは他国に比べマナーが良く、日本のモラル の高さを実感した。

テニス 盛岡南高3年 藤島 航

●参加できたことを光栄に思う。レベルの差を見せつけら れたような大会だったが、自分のテニスが通じる面もあ り今後の課題がよく見えた。同じように競技に取り組ん でいる他種目の選手の様子も見えて励みになった。

バレーボール 不来方高3年 金子 健一

- ●トップチームの高いレベルを体感し、チーム力向上・ 技術力向上ができたと思う。相手との差をどう詰めて いくかなど、自分達の弱さを知ることができた。
- ●体格に差があり、プレーも力強く正直力の差を感じた。 日本チームは、粘り強くミスがないプレーで岩手が目 指すべきチームだと思った。

盛岡市立高3年 杉内 バスケットボール 一関学院高3年 高橋 彩

- ●試合をして感じたことすべてが勉強になり、この大会 に参加したことが大きな自信になった。
- どのチームもシュート力、スピード、フィジカルが凄 かった。日本代表は高さのギャップを平面の速さで対 応しており、身長差があっても戦える工夫があり手本 になった。

ウエイトリフティング 盛岡工高2年 久慈工高2年 土内 嘉理

■慣れた会場だったが、雰囲気が全く違い、思うような試 技ができなかった。どんな状況でも力を発揮している 各国代表チームを見習いたい。

- ●日本語で「ガンバッテ」などと応援してくれてとても嬉 しかった。個人競技だが、チームとしても素晴らしい チームだった。
- ●日本代表選手の他チームへの細かい気遣いは、日本の 高校生として尊敬できた。

ハンドボール 不来方高3年 佐藤 夢良

- ●初めての国際試合の雰囲気、各国特有の競技スタイル、 体格差やスピードの違いを感じることができ、貴重な 経験ができた。
- ●韓国はブレがなく、力強く、スピードもあり、かつ正確 なプレーだった。中国は体格をいかしたダイナミック なプレーだった。日本はスピードがあり、粘り強いプ レーだった。

ソフトテニス 黒沢尻高2年 佐々木貴史

●初めての国際大会で緊張もあったが思い切りプレーで きた。言葉の壁はあったが身振り手振りで意思疎通が でき、他国の文化を少しでも学ぶことができた。

卓球 大野高1年 塚本 佳苗

- ●卓球は「個性」がよくでるスポーツ、各国の色々なボー ル(球質)を実際に受け、自分のプレーの幅を広げる必 要性を感じた。
- ■韓国は甘いボールを見逃さず一瞬で決める鋭いボール、 中国は多様な回転のボール、日本はラリー力、打点の高 さ、コースの鋭さがあった。

バドミントン 花北青雲高2年 中島 花北青雲高2年 野田 瑞貴

●実力の差は想像以上だったが、自分の足りないところ や課題を見つけることができた。どの国の選手もフレ ンドリーでやさしく接してくれた。また、技術面だけで なく、競技に対しての意識が高いこと、モチベーション の持ち方など、自分たちとの差を感じた。

ラグビーフットボール 黒沢尻工高2年 三田 唯力

●中国戦勝利の目標は達成できたが、日本、韓国との試合 では大差で敗れてしまい大変悔しかった。中国代表は 個々の能力が高く、韓国代表は体が大きくブレイクダ ウンなどの接点がとても強かった。日本代表はチーム としてのまとまりがあり、FW・BKの連携がうまくと れており、彼らに追いつくように頑張りたい。



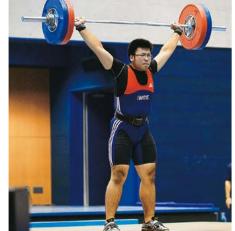
























一部写真は岩手日報撮影